

緑が丘だより



真岡中 9月



教育目標

- 1 自ら学ぶ生徒
- 2 心豊かな生徒
- 3 たくましい生徒

校長室から

充実の2学期が始まりました！

2学期が始まりましたが、残念なことに緊急事態宣言中につき10日まで分散登校となりました。期間中は様々ご協力いただきありがとうございました。13日から通常登校に戻ったため、遅ればせながら晴天の中、校庭で始業式を実施しました。

以前はよく校庭で式や朝会などを行ったものです。天候に左右されたり、座る時にズボンやスカートが汚れたりするためでしょうか。最近では、あまり見られなくなりました。自分が学校に通っていた頃（そうとう昔）は、校長先生の朝会での話と言えば、多分ありがたい話だったのでしょうが、いつも時間オーバーで1時間目の授業に食い込むことが多く、内容はあまり覚えていないのが普通でした。よく気分が悪くなり倒れる人がいるので、ふらついてきたら後ろの人は前の人をしっかりと支えるよう訓練されていました。担任は、一番後ろの生徒を助けるためにいるんだぞと、先輩教師に教わった記憶があります。余談ですが、今回のオリンピックで、開会セレモニーのバッハ、橋本両会長の話があまりにも長かったため、寝転びながら聞いていた選手もいる中、日本人選手だけは、きちんとした態度で聞いていたのは、校長先生の長い話を聞き慣れていたためだと何かに書いてあり、大笑いしてしまいました。

さて、本校の教育目標の三番目に「たくましい生徒」が掲げられています。

今の時代、たくましい生徒をどのように育成するか、とても難しい問題です。朝会一つとっても、生徒には腰を下ろして話を聞かせるなど、以前とは比べ物にならないくらい簡略化され、負担がないよう工夫されています。社会全体が丁寧でいろいろと配慮されてきたのは大変良いことですが、



子どもたちに厳しい社会を生きていく上での「生きる力」を身に付けさせることには、いささか不都合を感じます。「可愛い子には旅をさせよ」ということわざがあります。言うまでもなく、子がかわいいならば、あえてつらい経験など多くの経験をさせることにより、人間として大きく成長できるというものです。子どもたちが、辛い、疲れる、嫌だ、理不尽だ…などとマイナスの感情を伴う経験も時には必要なのではないかと感じます。こんな辛い思いをさせるのは、「子どもたちがかわいそう」のではなく、「子どもたちがかわいい」からこそ、この時期に辛い思いもさせることが大事です。

まずは、雨の日の乗用車での送迎、止めてみませんか？